

2019年度 履修の手引き

《教育学部子ども発達学科 1年生》

【目次】

はじめに	1
1. 進級と卒業	2
(1) 進級制限	
(2) 卒業までの流れ	
2. 履修上の注意点	2~5
(1) 要件とその種類	
(2) 単位制度	
(3) 授業科目群と科目区分	
(4) 科目名および配当年次	
(5) 科目番号	
(6) 履修登録単位数の上限	
(7) 履修できない科目	
(8) 再履修科目	
3. 履修登録に関するスケジュール	5
(1) 履修登録	
(2) 履修登録の変更	
(3) 履修登録の確認	
(4) 履修登録の削除	
4. 入学前に修得した単位の認定制度について	6
5. 入学後に他大学等で修得した単位の認定について	6
6. 検定試験取得級の単位認定について	6
7. GPA 制度	7
8. 小学校教諭一種免許について	8~12
9. 幼稚園教諭一種免許について	12~16
10. 保育士資格について	17~20
11. 履修カルテ・ポートフォリオ・4年後期「教職実践演習」	21
12. 民間資格の取得	21

【巻末】

- ・ 実習要件
- ・ 卒業要件

—カリキュラム—

カリキュラムは

学生用ページ→2019年度履修登録ページ→
所属学科の履修登録に必要な資料（カリキュ
ラム表）に掲載

**「履修の手引き」はいつでも参照できるように1年間保存の上、
後期履修ガイダンス時にも持参のこと**

はじめに

この『履修の手引き』には、皆さんが履修登録に際して留意しなければならないこと、また卒業するまでの流れや資格・免許の取得等に必要な単位をどのように修得すればよいかが記載されています。

各ページを確認し、内容を十分に理解した上で各手続きを行なってください。不明な点がある場合は、教務課または演習担当者まで問い合わせてください。

(1) 履修登録を行なう前に

大学では高校までと違って自分の責任で行動することになります。4年間の大学での学びについても、受講したい科目を自分で選択し、取得したい資格・免許が取れるように、時間割を自分自身で作成しなければなりません。時間割が決まったら、科目の登録手続き（履修登録）も自分で行ないます。配付されている『シラバス』ならびに『履修の手引き』を参考にして、自主的な学修計画を立ててください。

(2) 計画的な履修登録・学修を行なう理由

大学に4年間在学したら自動的に卒業できるわけではありません。本学での卒業要件単位(卒業するために必要最低限の単位)は124単位です。一つ一つの科目は、グループに分かれており(科目群と呼びます)、加えて必ず取らなければ卒業できない科目(必修科目)などの区分もあり、様々な条件を満たした上での、124単位が必要です。卒業に加えて資格を取得するには、これに加えて多くの科目を履修しなければいけません。そのためには、4年間の学修を計画的かつ慎重に行う必要があります。単位不足が生じると、卒業できない、資格・免許が取れないということが起こりますので、注意してください。

(3) グリーンカード(卒業に必要な単位取得ガイド表)の活用

下の表は、グリーンカードです。ぜひ、グリーンゾーンの単位修得を目指してください。

このガイド表は、124単位を想定していますので、資格取得にはこれ以外の単位数が必要です。

ランク		1年		2年		3年		4年 残り単位数	備考
		前期末	後期末	前期末	後期末	前期末	後期末		
AA	グリーン ゾーン	19以上	38以上	57以上	76以上	95以上	114以上	10以下	自信を持って就職活動ができる
A		17~18	34~37	51~56	68~75	85~94	102~113	11~22	余裕を持って就職活動ができる
B	イエロー ゾーン	15~16	30~33	45~50	60~67	75~84	90~101	23~34	就職活動がやや大変になる
C	レッド ゾーン	13~14	26~29	39~44	52~59	65~74	78~89	35~46	卒業に向けて努力が必要
D		12以下	25以下	38以下	51以下	64以下	77以下	47以上	このままでは卒業がきわめて困難

1. 進級と卒業

(1) 進級制限

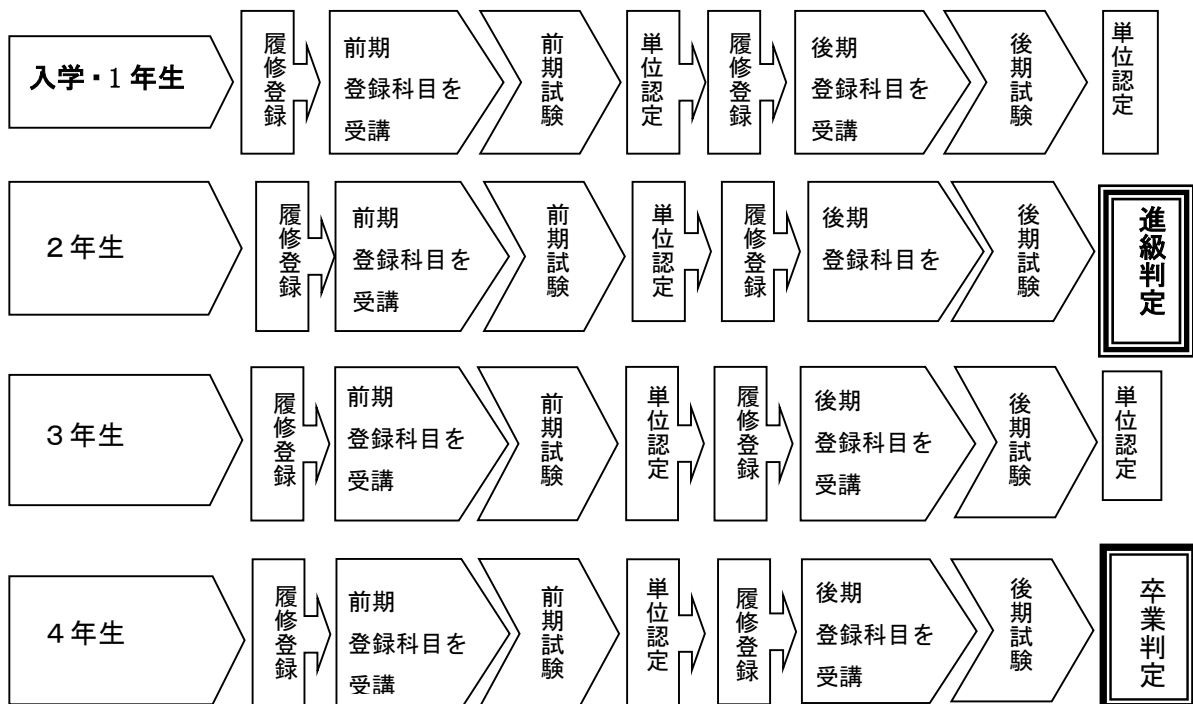
本学では、2年次から3年次への進級時に進級制限を設けています。以下の【進級の条件】を満たすことができなければ、原級留置（留年）となり、3年生に進級できません。4年間で卒業するために、まずは3年生にスムーズに進級できるよう頑張りましょう。

【進級の条件】

2年次終了時点で修得単位数が40単位以上、かつ「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」の単位を修得していること。

なお、修得単位数が30単位以上40単位未満で「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」の単位を修得している学生は、教授会での審議を経て「仮進級」として進級を認められることがありますが、仮進級した3年終了時の総修得単位数が50単位未満の場合は4年次に進級できません。

(2) 卒業までの流れ



2. 履修上の注意点

(1) 要件とその種類

卒業要件単位数が124単位であることは、前に述べました。要件というのは、「必要な条件」という意味で、卒業要件とは、卒業するためのクリアすべき条件ということです。教育学部では、卒業要件の他に、コース別卒業要件、資格・免許取得の要件など、要件の種類がたくさんあり、複雑な面がありますので、慎重に履修計画を立てることが大切です。

本学では、養成する人材像を明確示し、そのための体系的な学修を確実にを行うことを目的に、各学部学科にコースを設けています。教育学部には2つのコースがあります。

- ┌ 初等教育コース 就学前教育を理解した小学校教諭を養成。(幼稚園教諭・小学校教諭)
- └ 幼児教育コース 幼稚園教諭および保育士を養成。

コースの卒業要件は、コースによって異なります。この「履修の手引き」ならびに「シラバス」で確認してください。

初等教育コースでは、幼稚園教諭免許ならびに小学校教諭免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園教諭免許ならびに保育士資格が取得できます。それぞれの免許・資格ごとに取得するための要件は異なります。1科目でも足りないと、卒業時に資格が得られなくなります。

(2) 単位制度

単位制とは、一定の基準により単位が割り振られた授業科目を履修し、平素の学修状況および所定の試験またはレポートなどによる成績評価の結果、合格することによりその授業科目の単位を修得していく制度です。各科目の単位数は、『シラバス』のカリキュラム表に掲載されていますので、必ず自分の入学年度適用のカリキュラム表を参照してください。同じ科目名でも入学年度によって単位数が異なる場合もあります。

(3) 授業科目群と科目区分

授業科目は、「全学共通科目」と「専門科目」の2つの群からなっています。またそれぞれの科目は、次の3つのいずれかに区分されます。

- 授業科目 ┌ 全学共通科目 (必修科目・選択必修科目・選択科目)
- └ 専門科目 (必修科目・選択必修科目・選択科目)

必修科目：卒業するまでに必ず単位を修得しなければならない科目

選択必修科目：指定された科目の中から、所定の単位を修得しなければならない科目

選択科目：上記以外の科目で、卒業に必要な単位として算定される科目

(4) 科目名および配当年次

配当年次とは、何年生以上の学生がその科目を履修できるかということです。例えば、1年次配当科目は、1年生以上4年生までどの学年でも履修できます。2年次配当の科目は、2年生以上が対象になるため、1年生は履修できません。自分の入学年度のカリキュラム表で、各科目の配当年次を確認してください。時間割にはそれぞれの入学年度適用カリキュラムの科目名が記載されています。各曜日の一番左の「19」の欄に○が付いている科目が、1年生が履修できる科目を示しています。

(5) 科目番号

各科目には、それぞれ記号がついています。学修段階や順序を示す番号を付けることで、カリキュラムの順次性や体系性が確認でき、それに基づいた履修を促すことを目的としています。科目番号の見方は以下のとおりです。

例：EC 1 1 01 = 教職概論（幼・小）

科目の属性 (別表1参照)	科目の順次性 (別表2参照)	カリキュラムにおける科目の位置づけ(別表3参照)	科目区分内での 通し番号
EC (子ども発達学科)	1 (1年次または1・2年次に 配当されている科目)	1 (基礎科目)	01 (区分内の1番目の科目)

この部分を見れば自分が履修可能かどうか
分かります。

1～4は番号が若いほどカリキュラム内でコア（基本）
として位置づけられています。

〈別表1〉科目の属性

記号	付加情報	記号	付加情報
LA	全学共通科目	EC	教育学部専門科目
RB	地域ビジネス学科専門科目	TL	(中高)教職課程科目
HH	人間学部専門科目	IB	国際ビジネス学科専門科目
EL	国際ビジネス学科実践英語科目		

〈別表2〉科目の順次性

番号	付加情報	番号	付加情報
1	1年次または1・2年次に配当されている科目	4	4年次に配当されている科目
2	2年次または2・3年次に配当されている科目	9	「海外研修A～C」「資格取得科目」
3	3年次または3・4年次に配当されている科目		

〈別表3〉カリキュラムにおける各科目の位置づけ

(全学共通科目)

番号	付加情報	番号	付加情報
1	東邦基礎科目	3	スキル科目
2	教養科目	4	キャリア支援科目

(専門科目)

番号	付加情報	番号	付加情報
1	基礎科目	4	実習科目
2	基幹科目	8	実務科目
3	展開科目	9	ゼミナール

(6) 履修登録単位数の上限

本学では、履修登録単位数の上限を前・後期それぞれ24単位としており、24単位を超えて履修登録することはできません。ただし、集中講義科目を履修する場合は、この制限が適用されず履修登録をすることができます。

(7) 履修できない科目

他学部・他学科の科目、同一名称科目で複数クラス開講されている科目は、授業担当者や開講時間が異なっても、重複して履修することはできません。例えば、英語を選択した1年生は、前期に「英語基礎 IC」または「英語 IC」を履修しますが、他学部対象の「英語基礎 IA」や「英語 IA」などは履修できません。

(8) 再履修科目

再履修とは、不合格になった科目を次学期以降に再び履修することをいいます。1年次に不合格になった科目は、以下の要領で2年次以降再び履修をします。

【再履修しなければならない科目】 不合格になった科目が卒業の要件となる必修科目の場合は、次年度に再履修して単位を修得しなければなりません。

【再履修科目の優先履修】 再履修科目と在籍学年の配当科目が時間割上重なっている場合は、配当年次の低い再履修科目を優先して履修する必要があります。但し、実習を希望する学生は、実習要件になっている科目を優先する場合があります。

【選択必修科目の再履修】 選択必修科目は、自分自身で履修登録する必要があります。特に外国語科目やコンピュータ科目などは、2年次に各自で追加登録が必要です。

3. 履修登録に関するスケジュール

(1) 履修登録

履修登録はコンピュータを利用して行ないます。学年により履修登録の時間が異なりますので、ガイダンス日程表で確認してください。

(2) 履修登録の変更

以下の期間に履修登録の追加・取消をコンピュータで行なうことができます。ただし、変更が認められない科目については、TOPOS または掲示でお知らせしますので、必ず確認した上で変更してください。

期 間	時 間	場 所
4月8日(月)～4月12日(金)	9時～16時30分	L棟2階PC教室

(3) 履修登録の確認

履修登録が正しく行なわれたかどうかを以下の期間に必ず TOPOS で確認してください。掲示での連絡や履修登録結果の配付はしません。内容に誤りや不明な点があった場合は、確認期間中に必ず教務課に申し出てください。この申し出がない場合は、履修登録の手続きが全て正しく完了したものとみなします。

期 間	時 間	場 所
4月15日(月)～4月19日(金)	9時～16時30分	教務課窓口

(4) 履修登録の削除

履修を削除すると、履修登録単位数は減ります。以下の期間に、必修科目以外の科目の履修登録の削除を認めます。ただし、一度削除した科目を復活することはできませんので、注意してください。集中講義は、5回目の授業までは、履修登録の削除が行えます。また、やむを得ない理由により10回以上の出席が困難な状況と認められる場合も履修登録の削除が行えます。

期 間	時 間	場 所
4月15日(月)～5月17日(金)	9時～16時30分	教務課窓口

4. 入学前に修得した単位の認定制度について

「入学前に修得した単位の認定制度」とは、本学の1年生が入学前に他の大学または短期大学において単位修得した授業科目について、その科目に相当する授業科目が本学においても開講されている場合に、本学における授業科目の履修とみなして単位が認定される制度です。

(1) 申請手続き

単位認定を希望する学生は4月12日(金)までに教務課まで申し出てください。ただし、申請した全科目が単位認定されるとは限りません。

(2) 単位認定

詳細については、教務課まで問い合わせてください。

5. 入学後に他大学等で修得した単位の認定について

愛知県単位互換事業開放科目（愛知県内の四年制大学）および科目等履修生開放科目（その他の大学）で修得した単位が、本学の単位として認定される場合があります。愛知県単位互換事業開放科目の履修は、2年生以上が対象となります。

(1) 当該科目に相当する科目が本学で開講されている場合

〈単位認定可否〉本学の科目に読み替えて単位が認定されます。認定された単位は卒業要件に含まれます。

〈認定単位数〉最大60単位を上限として認定します。

(2) 当該科目に相当する科目が本学で開講されていない場合で、かつ本学の教育課程（カリキュラム）を補完し、本学の教育課程の幅を広げるのに有益な科目の場合

〈単位認定可否〉他大学の科目名をもって本学の「全学共通科目」または「専門科目」として単位が認定されます。認定された単位は卒業要件に含まれます。

〈認定単位数〉最大14単位を上限として認定します。

6. 検定試験取得級の単位認定について

本学では、検定試験合格のための努力と成果を評価し、在学中に合格した検定級に相当する本学開設の科目の単位を認定します。検定試験合格を本学在学中の目標の一つとして掲げ、達成できるよう頑張ってください。検定試験合格のための努力は必ず皆さんの自信につながることでしょう。

(1) 単位認定申請手続き

〈対象となる検定試験〉単位認定の対象となる検定試験および認定科目は愛知東邦大学学生用ページの規程のとおりです。この一覧表にある検定試験のみ単位認定を行な

いますので、検定試験の種類を確認の上、申請手続きをしてください。

〈申請方法〉本学所定の申請書に必要事項を記入して、「検定試験合格証書」または「合格通知」のコピーを申請書に添付し、教務課へ提出してください。また、同一の検定で複数の級を取得している場合は、取得した最も上位の級にて手続きを行なってください。

〈検定取得級の認定範囲〉各種検定試験で上位級を取得している場合は、その級の単位を認定するとともに同一検定試験の下位級の単位も同時に認定されます。

〈申請期間〉各種検定試験合格発表後1ヶ月以内です。この期間以降は申請しても単位認定はされません。希望者は必ず期間内に手続きしてください。

〈認定科目の単位修得学期〉認定された単位は、その検定試験の実施日を基準にして、本学における前期または後期の修得単位とします。

7. GPA 制度

GPA (Grade Point Average) 制度とは、科目ごとの成績評価を点数にかえて、全履修科目の平均を算出するものです。GPA によって自分の学修成果を自分自身で把握することができます。本学では科目の履修にあたって、学生が主体的にかつ充実した学修成果をあげることを目的としてこの制度を導入しています。

また、GPA は学内の様々な選考の指標となり、場合によっては、履修指導や退学勧告を受けることがありますので、自分の GPA を常に意識し、学修計画を立ててください。

(1) GPA 制度による成績評価

GPA 制度による成績評価は、以下の表の通りです。

素点	評価	GP
90 点～100 点	A+	4 点
80 点～89 点	A	3 点
70 点～79 点	B	2 点
60 点～69 点	C	1 点
0 点～59 点	D	0 点
欠席・棄権	K	0 点
失格	S	0 点

(2) GPA 制度の対象科目

【対象となる科目】履修登録した全科目

【対象とならない科目】評価を示さず、認定によって単位を修得した科目

(3) GPA の計算方法 (履修登録単位数×GP) の合計 / 履修登録単位数の合計 = GPA

科目名	履修登録単位数(a)	素点	評価	GP(b)	a×b
基礎演習 I	2	90	A+	4	8
●●学	2	70	B	2	4
●●論	2	50	D	0	0
●●演習	1	80	A	3	3
●●論	2	欠席	K	0	0
合計	9				15
平均					GPA 1.7

8. 小学校教諭一種免許について

小学校教諭になるためには、小学校教諭免許状が必要です。そのためには、教育職員免許法および同法施行規則等に定められた課程（教職課程）を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。教員免許状を取得しようとする者は、教員となるにふさわしい人格と学業への熱意を持ち、心身ともに健康でなければなりません。したがって、資格を取得しておけば何かの役に立つのではないかという安易な気持ちで履修しないようにしてください。小学校教諭一種免許状を取得するためには、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。その上で、以下に示す科目と単位を修得しなければなりません。該当科目は子ども発達学科の教育課程（カリキュラム）に全て含まれています。

(1) 教職課程科目

小学校教諭の免許状を取得するには、次表の①～③に示す単位と、④教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目を修得しなければなりません。

科目区分	本学での小学校教諭一種免許状取得に必要な必修単位数	免許法で定められている免許状取得に必要な最低修得単位数
①教科及び教科の指導法に関する科目 【表 A】	39 単位以上	30 単位以上
②教育の基礎的理解に関する科目等 【表 B】	34 単位以上	27 単位以上
③大学が独自に設定する科目 【表 C】	4 単位以上※以下③参照	2 単位以上
合 計	77 単位以上	59 単位以上

(2) 教職課程科目一覧

【表 A：教科及び教科の指導法に関する科目】

教科及び教科の指導法（小学校）の内容に関する専門的知識を修得するための科目です。

免許法施行規則 に定める科目区分		免許状取得に必要な 最低修得単位数	本学における 科目名	単位数	初等教育コースにお ける卒業要件上 の必修・選択の別	教職課程にお ける必修・選択 の別
教科に関する専門的事項	国語 (書写を含む。)	30	国語	2	必修	必修
	社会		2	必修	必修	
	算数		2	必修	必修	
	理科		2	必修	必修	
	生活		2	必修	必修	
	音楽		1	必修	必修	
	図画工作		2	必修	必修	
	家庭		2	必修	選択	
	体育		2	必修	必修	
	外国語		2	小学校英語	2	必修
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語 (書写を含む。)	30	国語科教育法	2	選択	必修
	社会		2	選択	必修	
	算数		2	選択	必修	
	理科		2	選択	必修	
	生活		2	選択	必修	
	音楽		2	選択	必修	
	図画工作		2	選択	必修	
	家庭		2	選択	必修	
	体育		2	選択	必修	
	外国語		2	小学校英語教育法	2	選択

【表 B：教育の基礎的理解に関する科目等】

学校教育に関する広範囲の専門知識（教科内容以外）を修得するための科目です。

免許法施行規則に定める科目区分等		免許状取得に必要な最低修得単位数	本学における科目名	単位数	初等教育コースの卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	必修	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容		教育史	2	選択	選択
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教職概論（幼・小）	2	必修	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育社会学	2	選択	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		教育法規	2	選択	選択
	教育課程の意義及び編成の方法		発達心理学（幼・小）	2	必修	必修
			教育心理学（幼・小）	2	必修	必修
			特別支援教育論（幼・小）	2	選択	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育の指導法（小学校）	2	選択	必修
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法（小学校）	2	選択	必修
	特別活動の指導法		特別活動の指導法（小学校）	2	選択	必修
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論（幼・小）	2	必修	必修
	生徒指導の理論及び方法		小学校情報活用教育	2	選択	選択
	教育相談の理論及び方法		生徒指導論（小学校）	1	選択	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育・保育相談	2	選択	必修
			進路指導論（小学校）	1	選択	必修
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習事前及び事後の指導（小学校）	2	選択	必修
			教育実習Ⅱ（小学校）	4	選択	必修
	教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	選択	必修

【表 C : 大学が独自に設定する科目】

免許法施行規則に定める科目区分等	免許状取得に必要な最低修得単位数	本学における科目名	単位数	初等教育コースの卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
大学が独自に設定する科目	2	多文化理解教育	2	選択	選択
		社会福祉概論	2	必修	必修
		社会的養護	2	必修	必修

「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」のどちらにも分類できませんが、「教育の基礎的理解に関する科目等に準ずる科目」と思われる科目を各大学独自が設定しています。この単位数は、最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」を充てることができます。

【表 D : 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目】

免許法施行規則に定める科目区分	免許状取得に必要な最低修得単位数	本学における科目名	単位数	本学の卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
日本国憲法	2	憲法	2	必修	必修
体育	2	体育	2	※	必修
外国語コミュニケーション	2	英語基礎 I C	1	選択必修	2 科目 選択必修
		英語基礎 II C	1	選択必修	
		英語 I C	1	選択必修	
		英語 II C	1	選択必修	
		英語 III	1	選択必修	
		英語 IV	1	選択必修	
		英語オーラルコミュニケーション I C	1	選択必修	
		英語オーラルコミュニケーション II C	1	選択必修	
		中国語総合 I	1	選択必修	
		中国語総合 II	1	選択必修	
		中国語オーラルコミュニケーション I	1	選択必修	
		中国語オーラルコミュニケーション II	1	選択必修	
		中国語オーラルコミュニケーション III	1	選択必修	
		中国語ライティング	1	選択必修	
		韓国語総合 I	1	選択必修	
		韓国語総合 II	1	選択必修	
韓国語オーラルコミュニケーション I	1	選択必修			
韓国語オーラルコミュニケーション II	1	選択必修			
情報機器の操作	2	入門コンピュータ	2	選択	必修

※初等教育コースは必修 幼児教育コースは選択

(2) 教育実習（小学校）の履修条件

小学校教諭（一種）の教職課程において「教育実習（4年次）」を履修するにあたっては、原則として以下の3つの条件を満たしていることが必要です。

- ① 卒業に必要な単位数の内、3年終了時までには100単位以上の単位を修得していること
- ② 本学に定める「教科及び教職に関する科目」及び「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」のうち、3年次配当までの必修及び選択必修の単位を修得していること
- ③ 実習生として教育実践現場に立つにたる、学修意欲【出席や遅刻等の状況を含む】、知的能力【原則としてGPA 2.0以上】及び日常の生活態度を有すること。

(3) 介護等体験実習への参加資格

小学校教諭の免許状を取得するためには「介護等体験実習」に参加しなければなりません。教育学部では、2年次に「介護等体験実習」を行います。参加するにあたっては、1年次に（前年度までに）「教職概論（幼・小）」「教育原理」「教育心理学（幼・小）」「発達心理学（幼・小）」「社会福祉概論」「社会的養護」の6科目すべての単位を修得していることが必要です。

9. 幼稚園教諭一種免許について

幼稚園教諭になるためには、幼稚園教諭免許状が必要です。そのためには、教育職員免許法および同法施行規則等に定められた課程（教職課程）を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。教員免許状を取得しようとする者は、教員となるにふさわしい人格と学業への熱意を持ち、心身ともに健康でなければなりません。したがって、資格を取得しておけば何かの役に立つのではないかという安易な気持ちで履修しないようにしてください。幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。その上で、以下に示す科目と単位を修得しなければなりません。該当科目は子ども発達学科の教育課程（カリキュラム）に全て含まれています。

(1) 教職課程科目

幼稚園教諭の免許状を取得するには、次表の①～③に示す単位と、④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目を修得しなければなりません。

科目区分	本学での幼稚園教諭一種免許状取得に必要な必修単位数	免許法で定められている免許状取得に必要な最低修得単位数
領域及び保育内容の指導法に関する科目 …①	25 単位以上	16 単位以上
教育の基礎的理解に関する科目等 …②	31 単位以上	21 単位以上
大学が独自に設定する科目 …③	2 単位以上※以下③参照	14 単位以上
合計	58 単位以上	51 単位以上

①領域及び保育内容の指導法に関する科目 【表 A 参照】

領域及び保育内容の指導法（幼稚園）の内容に関する専門的知識を修得するための科目です。

② 教育の基礎的理解に関する科目等 【表 B 参照】

学校教育に関する広範囲の専門知識（教科内容以外）を修得するための科目です。

③ 大学が独自に設定する科目 【表 C 参照】

「領域及び保育内容の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」のどちらにも分類できませんが、「教育の基礎的理解に関する科目に準ずる科目」と思われる科目を各大学独自が設定しています。

この「大学が独自に設定する科目」の単位数は、最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目」をあてることができる。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 【表 D 参照】

日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作に関する科目です。

(2) 教育実習（幼稚園）の履修条件

幼稚園教諭（一種）の教職課程において「教育実習（3 年次）」を履修するにあたっては、原則として以下の 3 つの条件を満たしていることが必要です。

- ① 卒業に必要な単位数の内、2 年終了時まで 64 単位以上の単位を修得していること
- ② 本学で定める「教科及び教職に関する科目」及び「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」のうち、2 年次配当までの必修及び選択必修の単位を修得していること
- ③ 実習生として教育実践現場に立つにたる学修意欲、知的能力及び日常の生活態度を有すること

(3) 教職課程科目一覧

【表 A：領域及び保育内容の指導法に関する科目】

免許法施行規則に定める科目区分	免許状取得に必要な最低修得単位数	授業科目	単位数	初等教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
健康	16	幼児と健康	1	選択	必修	必修
人間関係		幼児と人間関係	1	選択	必修	必修
環境		幼児と環境	1	選択	必修	必修
言葉		幼児と言葉	1	選択	必修	必修
表現		幼児と音楽表現	2	選択	必修	必修
		幼児と造形表現	2	選択	必修	必修
		幼児と身体表現	1	選択	必修	必修

保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	2	選択	必修	必修
	保育内容（健康）	2	選択	選択	必修
	保育内容（人間関係）	2	選択	選択	必修
	保育内容（環境）	2	選択	選択	必修
	保育内容（言葉）	2	選択	選択	必修
	保育内容（音楽表現）	2	選択	選択	必修
	保育内容（造形表現）	2	選択	選択	必修
	保育内容（身体表現）	2	選択	選択	必修

【表 B：教育の基礎的理解に関する科目等】

免許法施行規則に定める科目区分等		免許状取得に必要な最低修得単位数	本学における科目名	単位数	初等教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	必修	必修	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容		教育史	2	選択	選択	選択
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教職概論（幼・小）	2	必修	選択	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育社会学	2	選択	選択	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		教育法規	2	選択	選択	選択
	教育課程の意義及び編成の方法		発達心理学（幼・小）	2	必修	必修	必修
			教育心理学（幼・小）	2	必修	必修	必修
			特別支援教育論（幼・小）	2	選択	選択	必修
道徳的指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法論（幼・小）	2	必修	選択	必修
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法	1	選択	選択	必修
	教育相談		教育・保育相談	2	選択	選択	必修
教育実習に関する科目	教育実習	5	教育実習事前及び事後の指導（幼稚園）	2	選択	選択	必修
			教育実習 I（幼稚園）	4	選択	選択	必修
	教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	選択	選択	必修

【表 C：大学が独自に設定する科目】

免許法施行規則に定める科目区分等	免許状取得に必要な最低修得単位数	本学における科目名	単位数	初等教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修・選択の別	教職課程における必修・選択の別
大学が独自に設定する科目	14	多文化理解教育	2	選択	選択	選択
		社会的養護	2	選択	必修	必修

【表 D : 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目】

免許法施行規則 に定める科目区分	免許状取得に 必要な最低修 得単位数	本学における 科目名	単位数	本学の卒業要件 上の必修・選択 の別	教職課程における 必修・選択の別
日本国憲法	2	憲法	2	必修	必修
体育	2	体育	2	※	必修
外国語コミュニケーション	2	英語基礎 I C	1	選択必修	2 科目 選択必修
		英語基礎 II C	1	選択必修	
		英語 I C	1	選択必修	
		英語 II C	1	選択必修	
		英語 III	1	選択必修	
		英語 IV	1	選択必修	
		英語オールコミュニケーション I C	1	選択必修	
		英語オールコミュニケーション II C	1	選択必修	
		中国語総合 I	1	選択必修	
		中国語総合 II	1	選択必修	
		中国語オールコミュニケーション I	1	選択必修	
		中国語オールコミュニケーション II	1	選択必修	
		中国語オールコミュニケーション III	1	選択必修	
		中国語ライティング	1	選択必修	
		韓国語総合 I	1	選択必修	
		韓国語総合 II	1	選択必修	
韓国語オールコミュニケーション I	1	選択必修			
韓国語オールコミュニケーション II	1	選択必修			
情報機器の操作	2	入門コンピュータ	2	選択	必修

※ 初等教育コースは必修、幼児教育コースは選択

10. 保育士資格について

(1) 保育士資格について

「保育士」は児童福祉法に定められた法定資格です。保育所、児童養護施設等で乳幼児から18歳未満の年齢層の子どもの成長発達を援助し、保護者に保育に関する指導をすることを業務とする専門職に与えられる名称です。「保育士」資格は、一定の定められた科目を履修し、大学を卒業することにより取得できます。保育士には、保育、乳幼児心理、児童福祉や幼児教育に関する専門的知識と保育に関わる実践的技術を修得するとともに、人間や社会についての幅広い教養を身につけることが要請されます。保育士は専門職であるだけに、それを目指そうとする人は、目的意識を持って積極的に学修を進めることが望まれます。

(2) 保育実習（「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」）の履修条件

- ① 「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」については、「保育原理」「保育内容総論」「社会的養護」「保育実習事前指導ⅠA」「保育実習事前指導ⅠB」の単位を全て修得した者
- ② 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」については、上記①の該当科目に加えて「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導ⅠB」「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」の単位を全て修得した者
- ③ 実習生として保育実践現場に立つにたる学修意欲、知的能力及び日常の生活態度を有すること

(3) 「保育士」資格を取得するために必要な授業科目および単位の履修方法

告示による教科目		資格取得に必要な最低修得単位数	本学における科目	単位数	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修または選択の別	保育士資格に関わる必修または選択の別
目 保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	2	必修	必修
	教育原理	2	教育原理	2	必修	必修
	子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	2	必修	必修
	社会福祉	2	社会福祉概論	2	必修	必修
	子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論	2	選択	必修
	社会的養護Ⅰ	2	社会的養護	2	必修	必修
	保育者論	2	保育者論	2	選択	必修
目 保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	2	発達心理学(幼・小)	2	必修	必修
	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	選択	必修
	子どもの理解と援助	1	子どもの理解と援助	1	必修	必修
	子どもの保健	2	子どもの保健	2	必修	必修
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	選択	必修

告示による教科目		資格取得に必要な最低修得単位数	本学における科目	単位数	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修または選択の別	保育士資格に関わる必修または選択の別
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	2	保育の計画と評価	2	選択	必修
	保育内容総論	1	保育内容総論	2	必修	必修
	保育内容演習	5	保育内容（健康）	2	選択	必修
			保育内容（人間関係）	2	選択	必修
			保育内容（環境）	2	選択	必修
			保育内容（言葉）	2	選択	必修
			保育内容（音楽表現）	2	選択	必修
			保育内容（造形表現）	2	選択	必修
			保育内容（身体表現）	2	選択	必修
	保育内容の理解と方法	4	幼児と健康	1	必修	必修
			幼児と人間関係	1	必修	必修
			幼児と環境	1	必修	必修
			幼児と言葉	1	必修	必修
			幼児と音楽表現	2	必修	必修
			幼児と造形表現	2	必修	必修
			幼児と身体表現	1	必修	必修
乳児保育Ⅰ	2	乳児保育論	2	必修	必修	
乳児保育Ⅱ	1	乳児保育演習	1	選択	必修	
子どもの健康と安全	1	子どもの健康と安全	1	選択	必修	
障害児保育	2	障害児保育	2	必修	必修	
社会的養護Ⅱ	1	社会的養護内容	2	選択	必修	
子育て支援	1	子育て支援	1	選択	必修	
保育実習	保育実習Ⅰ	4	保育実習ⅠA	2	選択	必修
			保育実習ⅠB	2	選択	必修
	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習事前指導ⅠA	2	選択	必修
			保育実習事前指導ⅠB	2	選択	必修
			保育実習指導ⅠA	2	選択	必修
保育実習指導ⅠB	2	選択	必修			
総合演習	保育実践演習	2	保育実践演習	2	選択	必修
合計		51		73		

告示による教科目			本学における教科の開設状況等				
系列	教科目	授業形態		本学における科目	幼児教育コースにおける卒業要件上の必修または選択の別と単位数		保育士資格に関わる必修または選択の別
					必修	選択	
質・目的に関する科目 保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上				
				教育心理学（幼・小）	2		選択
				多文化理解教育		2	選択
				幼児理解の理論と方法		1	選択
				生活		2	選択
				音楽表現技術		1	選択
				図画工作		2	選択
				体育		2	選択
				総合表現技術	2		選択
				教育方法論（幼・小）		2	選択
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ		2	※選択必修①
	保育実習Ⅲ			保育実習Ⅲ		2	※選択必修②
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習Ⅱ事前事後指導		2	※選択必修①
	保育実習Ⅲ			保育実習Ⅲ事前事後指導		2	※選択必修②
合計		18単位以上					

※保育士資格に関わる選択必修科目は①または②のどちらかを選択しなくてはならない。

告示による 教科目		資格取得に必要な最低 修得単位数	本学における科目名	単位数	卒業要件上の必修 または選択の別	保育士資格に関わる 必修または選択の別
教 養 科 目	以外 の 科 目 外国語・ 体育	6 単位以上	基礎演習 I	2	必修	必修
			基礎演習 II	2	必修	必修
			憲法	2	必修	必修
			入門コンピュータ	2	選択	選択
	外国語	2 単位以上	英語基礎 I C	1	選択必修 同一言語で 4 単位	選択必修 同一言語で 4 単位
			英語基礎 II C	1		
			英語 I C	1		
			英語 II C	1		
			英語 III	1		
			英語 IV	1		
			英語オーラルコミュニケーション I C	1		
			英語オーラルコミュニケーション II C	1		
			中国語総合 I	1		
			中国語総合 II	1		
			中国語オーラルコミュニケーション I	1		
			中国語オーラルコミュニケーション II	1		
			中国語オーラルコミュニケーション III	1		
			中国語ライティング	1		
			韓国語総合 I	1		
			韓国語総合 II	1		
韓国語オーラルコミュニケーション I	1					
韓国語オーラルコミュニケーション II	1					
体育	1 単位以上 (講義)	わたしたちの身体	2	選択	必修	
	1 単位以上 (実技)	スポーツ実習	1	選択	必修	
合計		10 単位以上				

11. 履修カルテ・ポートフォリオ・4年後期「教職実践演習(幼・小)」

「履修カルテ」と、それを核とする「ポートフォリオ」は、大学4年間の学習状況をその都度自分で詳細に確認しながら自己評価し、指導教員から適宜指導を受ける重要な記録です。そして、この記録を活用しながら4年後期に履修する教職必修科目「教職実践演習(幼・小)」は4年間の総括をおこなう特別の意義を担っています。こうした独特のカリキュラム体制は、全国大学の教職課程で共通して採られている方法で、教職課程の質を向上させるために国が推奨している取組みです。

(1) 履修カルテ

毎年度の前・後期試験評価結果が発表されたら、所定の形式に各自で記入して、反省をおこない、演習教官から指導を受ける個人カルテです。特に卒業必修科目や免許・資格取得に必要な科目を履修できたかどうかについて、その都度チェックし、単位履修状況について自己管理をおこなうための基礎資料ですから、期末ごとに大事に扱って、自己評価を欠かしてはなりません。

(2) ポートフォリオ

「ポートフォリオ」(portfolio)の本来の語義は単に「書類ばさみ」とか「資料入れ」ですが、現在の大学教育では「ポートフォリオ評価」として使われています。つまり、個人の単位履修評価記録としての「履修カルテ」や授業レポート、ノート、実習記録、製作した作品、サービス・ラーニング記録、卒業研究資料、クラブ・サークル活動記録など、あらゆる成果や記録を網羅した資料綴りを大事に保存しておき、その時々はその資料綴りを基に大学生としての4年間の成長をあらゆる側面から自己評価して、次の課題を探る活動で、教員はその自己評価をする際に助言指導をおこなう重要書類です。

(3) 4年後期「教職実践演習(幼・小)」

2013年度後期に4年生を対象にして全国一斉に導入された教職課程の新必修科目「教職実践演習(幼・小)」の目的は、①他の科目と異なり、4年間の学習全体に関する総合的な総括をおこなうこと。②なかでも教職に必要な資質能力の達成度を検討しつつ、不足している知識・経験を補うこと。③大学の理論的知識と学校現場での実践を総合的に把握する内容構成とすること、です。

それだけに、上記の「履修カルテ」と「ポートフォリオ」は必須の基礎資料となります。

12. 民間資格の取得

本学は、さまざまな民間資格の認定校となっています。以下の資格取得を目指す場合は、申請等が必要になりますので、よく読んでください。

◆ピアヘルパー

ピアヘルパーとは、カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人とかかわるために必要な基本的な力を身につけたことを証明する資格です。

〈資格申請条件〉本学で実施する試験を受験し、かつ以下の資格要件科目の中から3科目6単位を修得または、修得見込みの学生であること。

〈資格要件科目〉心の健康・心の病、発達心理学、教育心理学、相談援助、家庭支援論、教育・保育相談、生徒・進路指導の理論と方法

〈資格申請方法〉上記の条件をクリアした学生に認定証を配付します。〈必要費用〉¥4,800(受験料)

※科目表以外の履修要件

- 教育実習Ⅱ（小学校）… ① 卒業に必要な単位数の内、3年終了時までには100単位以上の単位を修得していること
- ② 実習生として教育実践現場に立つにたる学修意欲【出席や遅刻等の状況を含む】、知的能力【原則としてGPA2.0以上】及び日常の生活態度を有すること。
- 教育実習Ⅰ（幼稚園）… ① 卒業に必要な単位数の内、2年終了時までには64単位以上の単位を修得していること
- ② 実習生として教育実践現場に立つにたる学修意欲、知的能力及び日常の生活態度を有すること
- 保育実習ⅠA.ⅠB.Ⅱ.Ⅲ… 実習生として保育実践現場に立つにたる学修意欲、知的能力及び日常の生活態度を有すること

【教育学部子ども発達学科/初等教育コース】 <2019年度入学生適用>

授業科目群		必修	選択必修	選択	卒業要件単位数	
全学共通科目	東邦基礎力科目	8単位	-	12単位以上	26単位以上	
	教養科目	2単位	-			
	スキル科目	外国語科目	-			4単位
		コミュニケーション科目	-			-
		コンピュータ科目	-			-
キャリア支援科目	-	-				
専門科目	基礎科目	8単位	-	41単位以上	90単位以上	
	基幹科目	8単位	-			
	展開科目	25単位	-			
	実習科目	-	-			
	総合実践演習	-	-			
	ゼミナール	8単位	-			
開設科目全域		-	-	8単位以上	8単位以上	
合計		59単位	4単位	61単位以上	124単位以上	

【教育学部子ども発達学科/幼児教育コース】 <2019年度入学生適用>

授業科目群		必修	選択必修	選択	卒業要件単位数	
全学共通科目	東邦基礎力科目	8単位	-	12単位以上	26単位以上	
	教養科目	2単位	-			
	スキル科目	外国語科目	-			4単位
		コミュニケーション科目	-			-
		コンピュータ科目	-			-
キャリア支援科目	-	-				
専門科目	基礎科目	8単位	-	46単位以上	90単位以上	
	基幹科目	8単位	-			
	展開科目	20単位	-			
	実習科目	-	-			
	総合実践演習	-	-			
	ゼミナール	8単位	-			
開設科目全域		-	-	8単位以上	8単位以上	
合計		54単位	4単位	64単位以上	124単位以上	